

大學入学者選抜関連資料集

目次

1. 大学入学者数等の推移について

- 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 2
- 高等学校卒業者数・大学（学部）志願者数・大学（学部）入学定員の推移 3
- 入学定員（募集人員）の推移 4
- 入学志願者の推移（延べ数） 5
- 志願倍率の推移 6
- 入学者数の推移 7

2. 我が国の入試制度の概要について

- 大学入試の基本的な考え方 9
- 受験者数等 10
- 令和2年度大学入学者選抜日程 11
- 大学入試センター試験の概要 12
- 独立行政法人大学入試センターの概要 13
- 令和2年度大学入試センター試験について 14
- 大学入試センター試験参加大学数及び志願者・受験者数の推移 15
- 各国の大学入学者選抜に係る共通試験について 16
- 総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の区分について 17

3. 入学者選抜の実施状況等について

- 平成30年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較） 19
- 平成30年度入学者選抜実施状況の概要（国公私立別） 20
- 一般入試において面接、小論文等を課す国公立大学（平成31年度入試） 21
- 平成31年度大学入学者選抜（一般入試）の実施状況の例 22
- 平成28年度AO入試における学力把握措置状況 23
- 平成28年度推薦入試における学力把握措置状況 24
- 個別入学者選抜改革の進展① 25
- 個別入学者選抜改革の進展② 26
- 個別入学者選抜改革の進展③ 27
- 個別入学者選抜改革の進展④ 28

4. 障害等のある入学志願者への配慮の状況について

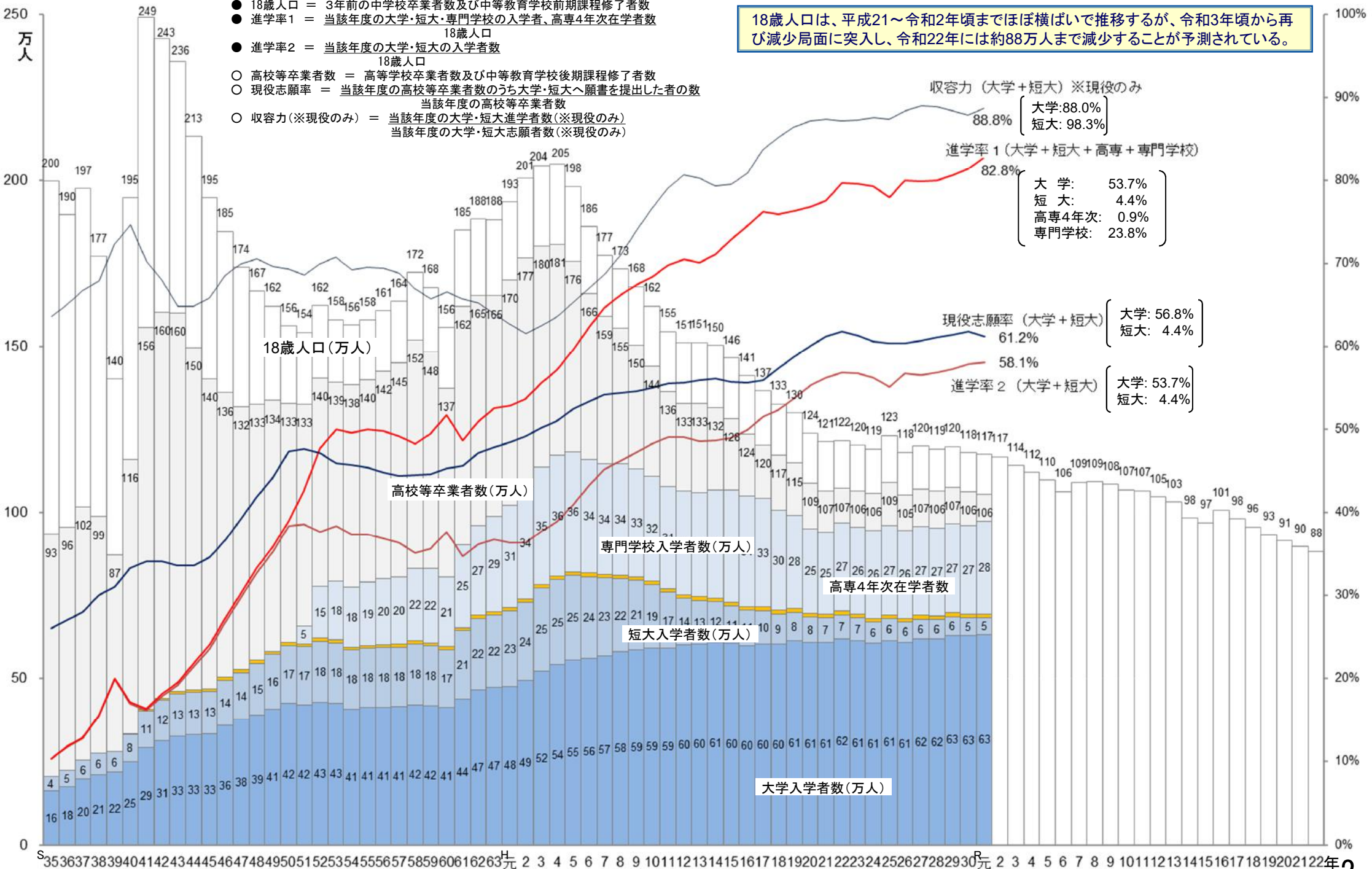
- 大学入試センター試験 受験上の配慮決定者数 ① 30
- 大学入試センター試験 受験上の配慮決定者数 ② 31
- 個別入学者選抜において実施した特別措置の内容 32

1. 大学入学者数等の推移について

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

18歳人口は、平成21～令和2年頃までほぼ横ばいで推移するが、令和3年頃から再び減少局面に突入し、令和22年には約88万人まで減少することが予測されている。

- 18歳人口 = 3年前の中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 進学率1 = 当該年度の大学・短大・専門学校への入学者、高専4年次在学者数 / 18歳人口
- 進学率2 = 当該年度の大学・短大の入学者数 / 18歳人口
- 高校等卒業生数 = 高等学校卒業生数及び中等教育学校後期課程修了者数
- 現役志願率 = 当該年度の高校等卒業生数のうち大学・短大へ願書を提出した者の数 / 当該年度の高校等卒業生数
- 収容力(※現役のみ) = 当該年度の大学・短大進学人数(※現役のみ) / 当該年度の大学・短大志願者数(※現役のみ)



出典: 文部科学省「学校基本統計」令和14年～22年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成
 ※進学率、現役志願率については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

高等学校卒業生数・大学(学部)志願者数・大学(学部)入学定員の推移

年度	高等学校等 卒業生数	大学(学部) 入学志願者数	大学(学部)入学者数				大学(学部)入学定員				大学(学部) 進学率
	計	計	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
平成 10	1,441,061	790,423	590,743	107,311	21,205	462,227	515,735	102,526	19,813	393,396	36.4%
11	1,362,682	756,422	589,559	105,240	22,629	461,690	524,807	99,899	21,011	403,897	38.2%
12	1,328,940	745,200	599,655	103,054	23,578	473,023	535,445	97,297	21,792	416,356	39.7%
13	1,327,109	750,331	603,953	103,013	24,125	476,815	539,370	97,337	22,289	419,744	39.9%
14	1,315,079	756,333	609,337	103,301	24,276	481,760	543,319	97,072	22,399	423,848	40.5%
15	1,281,656	742,934	604,785	103,762	25,153	475,870	543,818	97,187	22,916	423,715	41.3%
16	1,235,482	722,227	598,331	103,552	25,074	469,705	545,261	96,525	23,084	425,652	42.4%
17	1,203,251	699,732	603,760	104,130	26,050	473,580	551,775	96,485	24,063	431,227	44.2%
18	1,172,087	690,435	603,054	104,027	26,935	472,092	561,959	96,393	25,033	440,533	45.5%
19	1,148,108	689,673	613,613	102,455	26,967	484,191	567,123	96,278	25,235	445,610	47.2%
20	1,089,188	670,371	607,159	102,345	27,461	477,353	570,250	95,956	25,462	448,832	49.1%
21	1,065,412	668,590	608,731	101,847	28,414	478,470	573,223	96,272	26,532	450,419	50.2%
22	1,071,422	680,644	619,119	101,310	29,107	488,702	575,325	96,447	27,397	451,481	50.9%
23	1,064,074	674,696	612,858	101,917	29,657	481,284	578,427	96,458	27,742	454,227	51.0%
24	1,056,387	664,334	605,390	101,181	30,017	474,192	581,428	96,497	27,987	456,944	50.8%
25	1,091,614	679,199	614,183	100,940	30,044	483,199	583,618	96,512	28,395	458,711	49.9%
26	1,051,343	661,555	608,247	100,874	30,669	476,704	586,024	96,465	28,823	460,736	51.5%
27	1,068,989	666,327	617,507	100,631	30,940	485,936	588,962	96,277	28,843	463,842	51.5%
28	1,064,352	665,237	618,423	100,146	31,307	486,970	593,347	95,981	29,317	468,049	52.0%
29	1,074,655	679,004	629,733	99,462	31,979	498,292	606,835	95,693	29,858	481,284	52.6%
30	1,061,565	679,040	628,821	99,371	33,073	496,377	616,697	95,650	32,717	488,330	53.3%
31	1,055,807	673,844	631,267	99,136	33,712	498,419					53.7%

※高校学校等卒業生数・・・高等学校及び中等教育学校後期課程の卒業生数(現役のみ)

※大学(学部)入学志願者数・・・高等学校及び中等教育学校後期課程の卒業生のうち、大学(学部)への入学志願者数(過年度卒業生を含む)

※大学(学部)入学志願者数については、同一人が2校(学部)以上を志願した場合も1名として計上される。

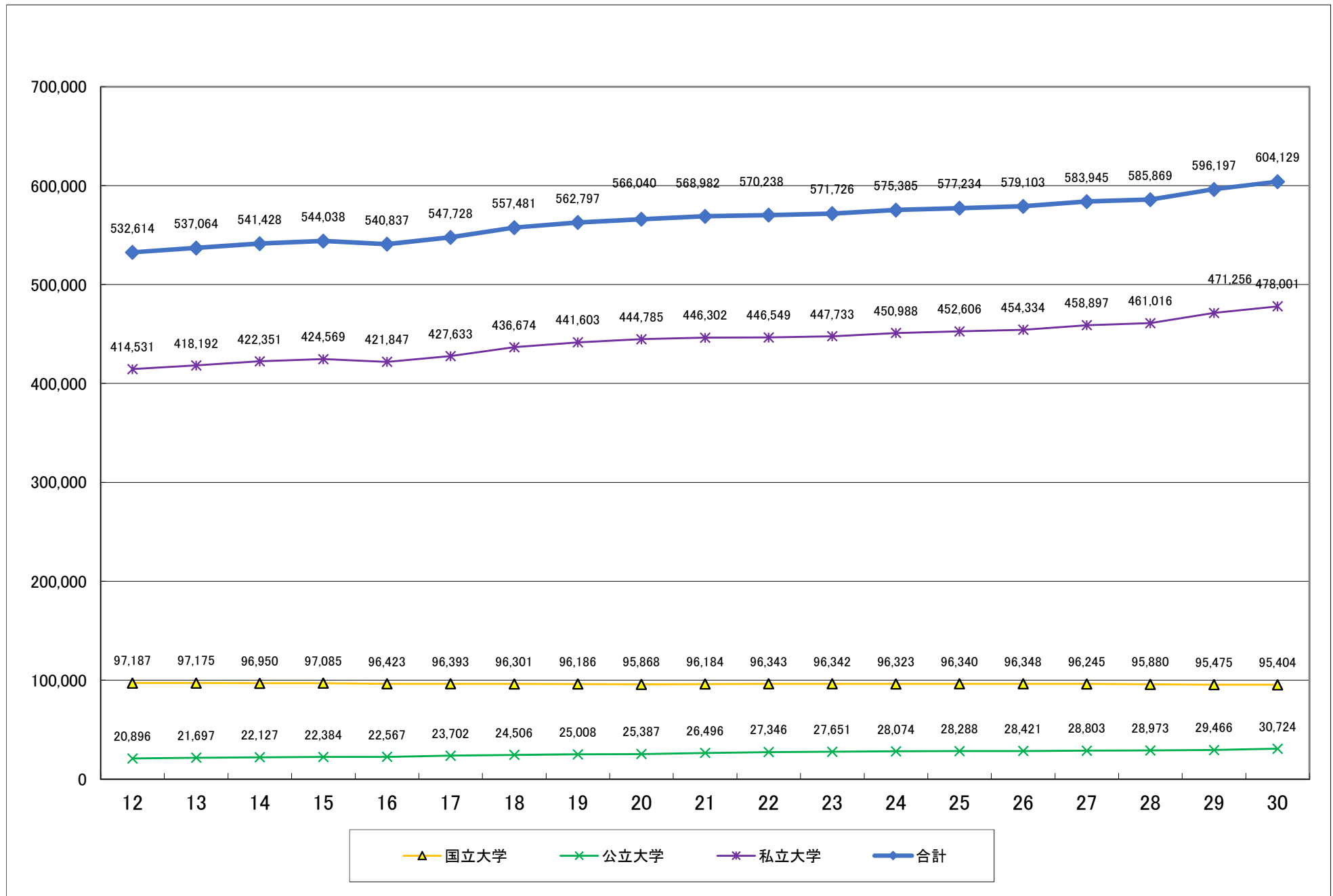
※大学(学部)入学者数・・・大学(学部)への入学者数(過年度卒業生を含む)

※大学(学部)進学率・・・大学(学部)入学者数/18歳人口(3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数)

出典:高等学校等卒業生数、大学(学部)入学志願者数、大学(学部)入学者数・・・文部科学省『学校基本統計』

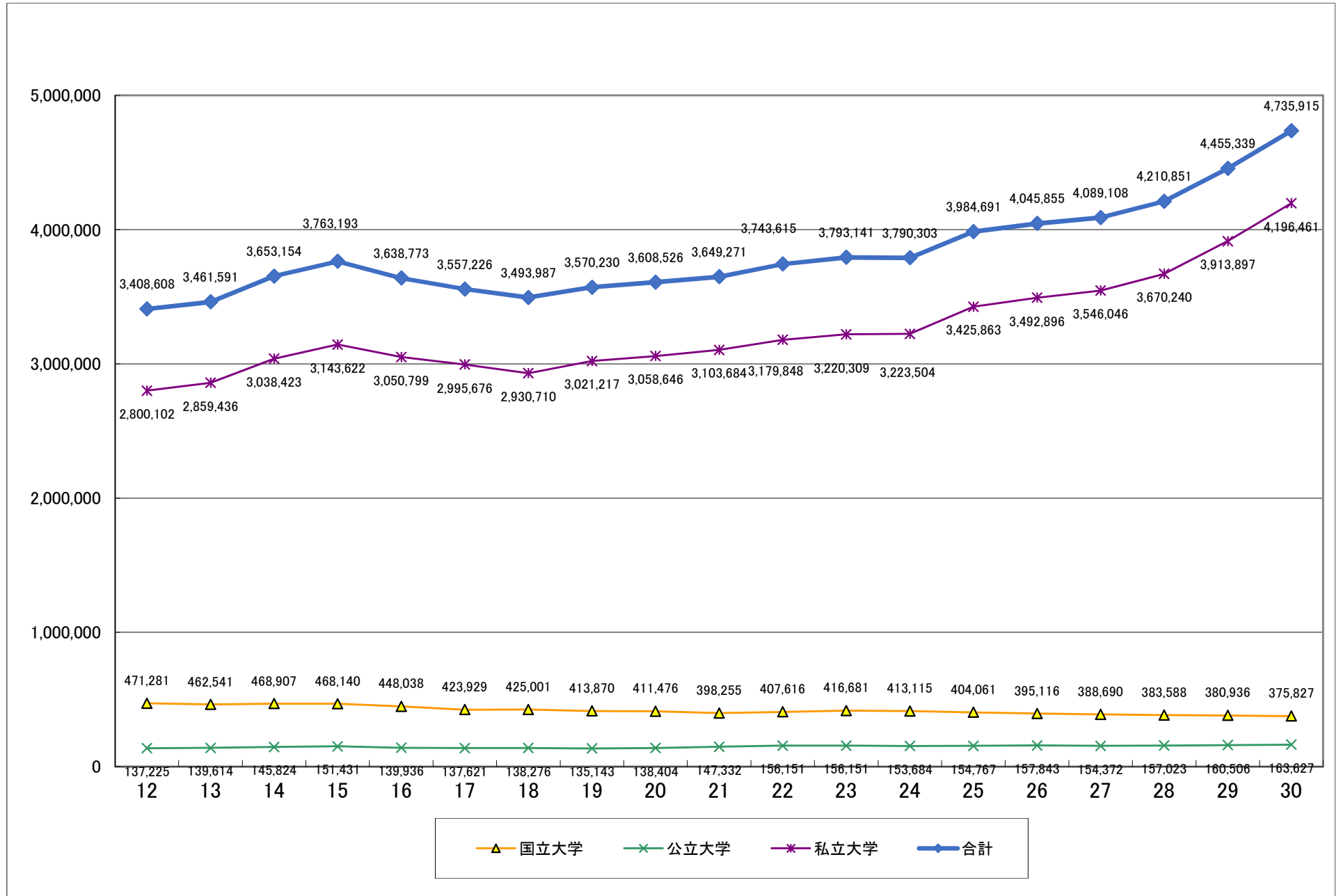
大学(学部)入学定員・・・全国大学一覧

入学定員(募集人員)の推移



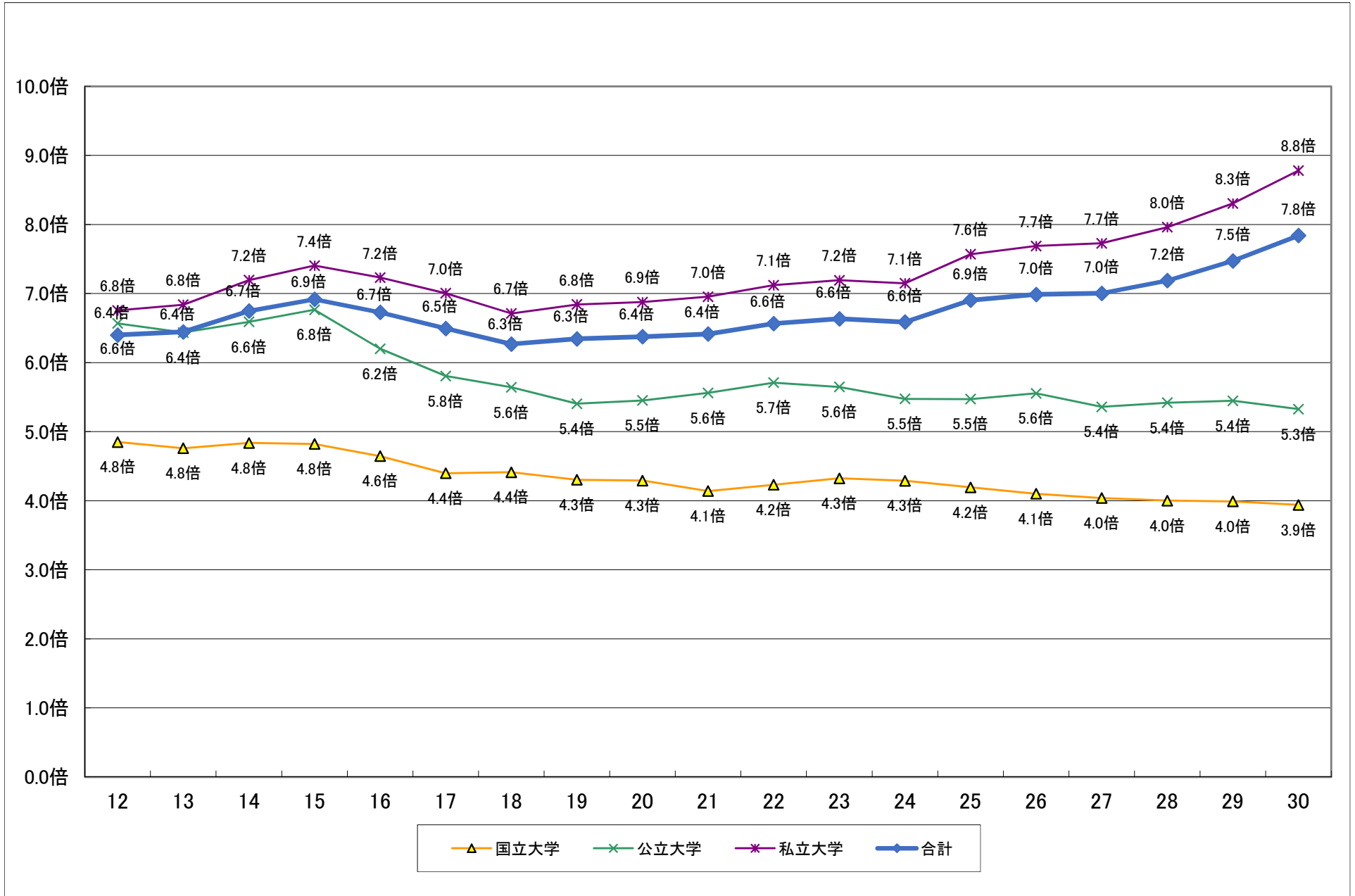
※通信課程は含まない。
 ※外国人留学生を対象とする選抜は含まない。

入学志願者の推移(延べ数)



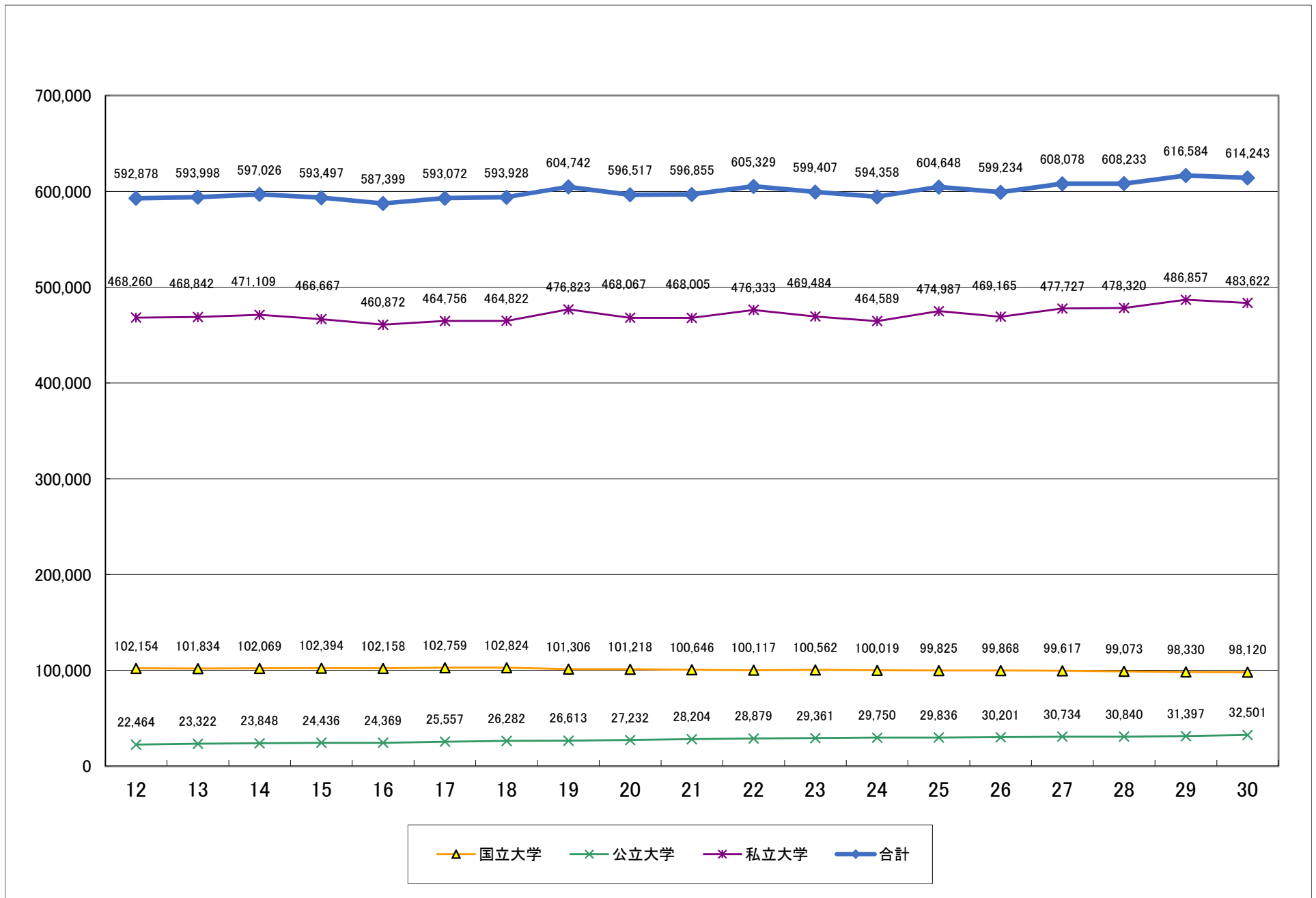
※通信課程は含まない。
 ※外国人留学生を対象とする選抜は含まない。

志願倍率の推移



※通信課程は含まない。
 ※外国人留学生を対象とする選抜は含まない。

入学者数の推移



※通信課程は含まない。
 ※外国人留学生を対象とする選抜は含まない。

2. 我が国の入試制度の概要について

大学入試の円滑な実施に資するため、以下のような省令や基本方針に基づき、多様な入試方法や学力検査の在り方等について、毎年度、ガイドラインとして「大学入学者選抜実施要項」を定め、各大学に通知している。

○大学設置基準（昭和31年10月22日文部省令第28号）

（入学者選抜）

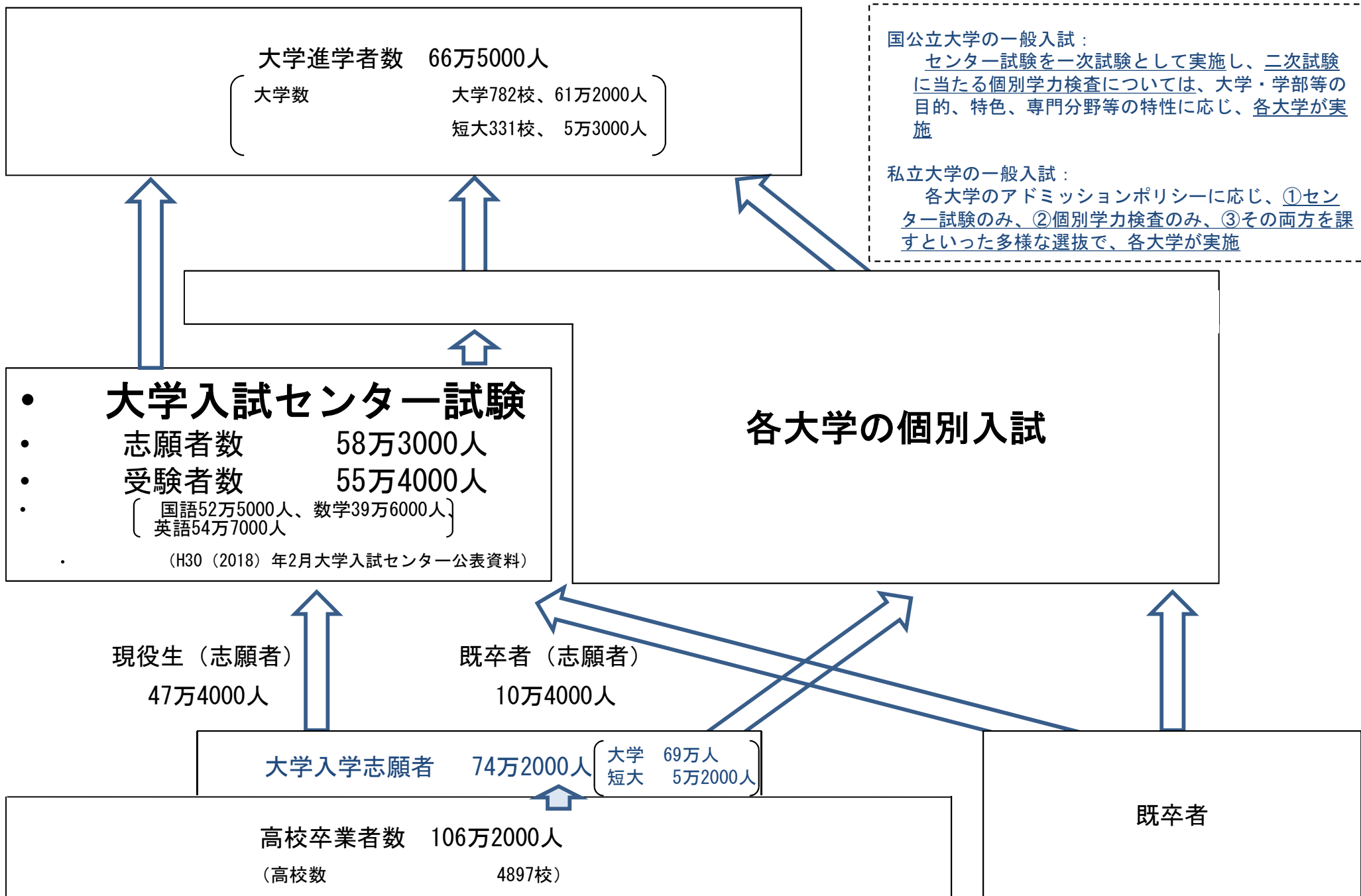
第二条の二 入学者の選抜は、公正かつ妥当な方法により、適切な体制を整えて行うものとする。

（基本方針）

大学入学者選抜は、各大学（短期大学を含む。以下同じ。）が、それぞれの教育理念に基づき、生徒が高等学校段階までに身に付けた力を、大学において発展・向上させ、社会へ送り出すという大学教育の一貫したプロセスを前提として、各大学が、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、大学への入口段階で入学者に求める力を多面的・総合的に評価することを役割とするものである。

このことを踏まえ、各大学は、入学者の選抜を行うに当たり、公正かつ妥当な方法によって、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定する。（略）

平成31年度大学入学者選抜実施要項（平成30年6月4日付文部科学省高等教育局長通知）より



令和2年度大学入学者選抜日程

	～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	A O 入 試												
	推 薦 入 試												
国 公 立 大 学	「大学入学者選抜実施要項」を各大学に通知(局長通知)	令和元年6月4日～7月31日 選抜要項の発表(各大学)	令和元年9月30日～10月10日 大学入試センター試験の出願受付	令和元年12月15日まで 募集要項の発表(各大学)	(追試 1月25・26日) 令和2年1月18・19日 大学入試センター試験	(公立)令和2年1月27日～2月5日 (国立)令和2年1月27日～2月5日 出願受付	令和2年2月25日～ 前期日程試験	(公立)令和2年3月1日～10日 (国立)令和2年3月6日～10日 前期日程の合格発表	令和2年3月8日～ 中期日程試験	令和2年3月12日～ 後期日程試験	(後期)令和2年3月20日～24日 (中期)令和2年3月20日～23日 中期・後期日程の合格発表	(各大学で独自に設定) 試 験	合 格 発 表
私 立 大 学	A O 入 試												
	推 薦 入 試												

大学入試センター試験とは

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、**大学が共同して実施する試験**。

【大学入試センター試験導入の背景】

昭和54年度から実施された**共通一次学力試験**は、大学の2次試験との組み合わせによる**多様な選抜の実現に寄与**するとともに**難問・奇問を排した良質な問題を確保**するなどの成果を挙げた。

一方で、私立大学が基本的に参加しなかったことで、**効果が限定的**であり、5教科7科目（昭和62年度から5教科5科目）の**画一的な利用が大学の序列化**をもたらすなどの課題が生じた。

このため、選抜に利用する教科・科目は**各大学が自由に選択可能（アラカルト方式）**とし、**設置主体を問わず各大学が多様な選抜資料の一つとして利用できる試験**として、共通一次学力試験の成果を引き継ぎつつ、大学入試の個性化・多様化に貢献する試験として導入。

【大学入試センターが果たす役割】

1 難問奇問を排除した良質な問題の確保

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通一次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

2 各大学が実施する試験との適切な組合せによる大学入試の個性化・多様化

大学入試センター試験を利用することで、小論文、面接等を実施する大学や推薦入試、帰国子女・社会人を対象とした特別入試を実施する大学が増えています。このように大学入試センター試験は大学入試の個性化・多様化に貢献しています。

3 国公立大学及び公私立短期大学を通じた入試改革

公私立大学・短期大学の利用数は、令和2年度入試では、774大学・短期大学であり（平成31年3月31日現在）、利用した大学・短期大学からも好評を得ています。

4 アラカルト方式による各大学に適した利用

大学入試センター試験では、利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、各大学がその大学・学部に必要な教科・科目を指定することができます。

独立行政法人大学入試センターとは

大学が共同して実施する試験に関し、一括処理することが適当な業務（試験問題の作成・印刷及び輸送、答案の採点・集計・各大学への成績提供 等）を実施。

○独立行政法人大学入試センター法（平成11年法律第166号）（抄）

（センターの目的）

第3条 独立行政法人大学入試センター（以下「センター」という。）は、大学に入学を志願する者に対し大学が共同して実施することとする試験に関する業務等を行うことにより、大学の入学者の選抜の改善を図り、もって大学及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）における教育の振興に資することを目的とする。

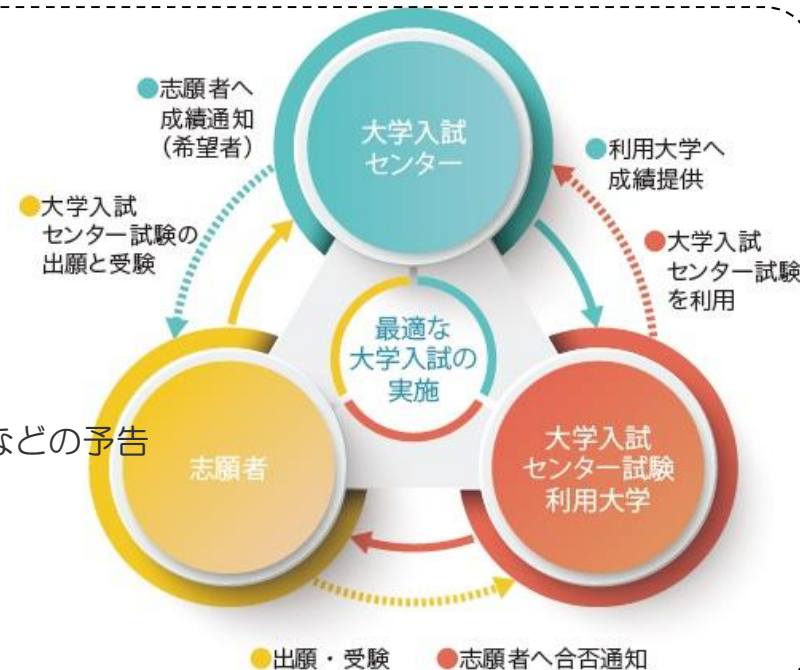
【大学入試センターと利用大学の役割】

●大学入試センターの役割

- ・試験問題の作成、印刷、輸送
- ・受験案内、実施マニュアルなどの作成
- ・出願の受付、試験場の指定、受験票の交付
- ・答案の採点、集計
- ・試験成績などの各大学への提供
- ・試験成績の本人通知

●利用大学の役割

- ・大学入試センター試験の利用教科・科目及び各大学ごとの学力検査などの予告
- ・試験場の設定、試験監督者などの選出
- ・志願者への受験案内の配付
- ・試験の実施、答案の整理・返送、試験成績の請求
- ・試験問題作成に携わる者の派遣
- ・試験問題の保管・管理



令和2年度大学入試センター試験について

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【試験期日】

- ・本試験：令和2年1月18日(土)、19日(日)
 - ・追(再)試験：令和2年1月25日(土)、26日(日)
- ※試験は1/13日以降の最初の土日に実施

【志願者数、利用大学数等】

- ・志願者数：557, 698人
[対前年度▲19, 132人]
- ・試験場数：689試験場
[対前年度▲4試験場]
- ・利用大学数：706大学
[対前年度+3大学]

(内訳)

国立 82大学
公立 91大学
私立 533大学

152短期大学

[対前年度+3短期大学]

(内訳)

公立 13短期大学
私立 139短期大学

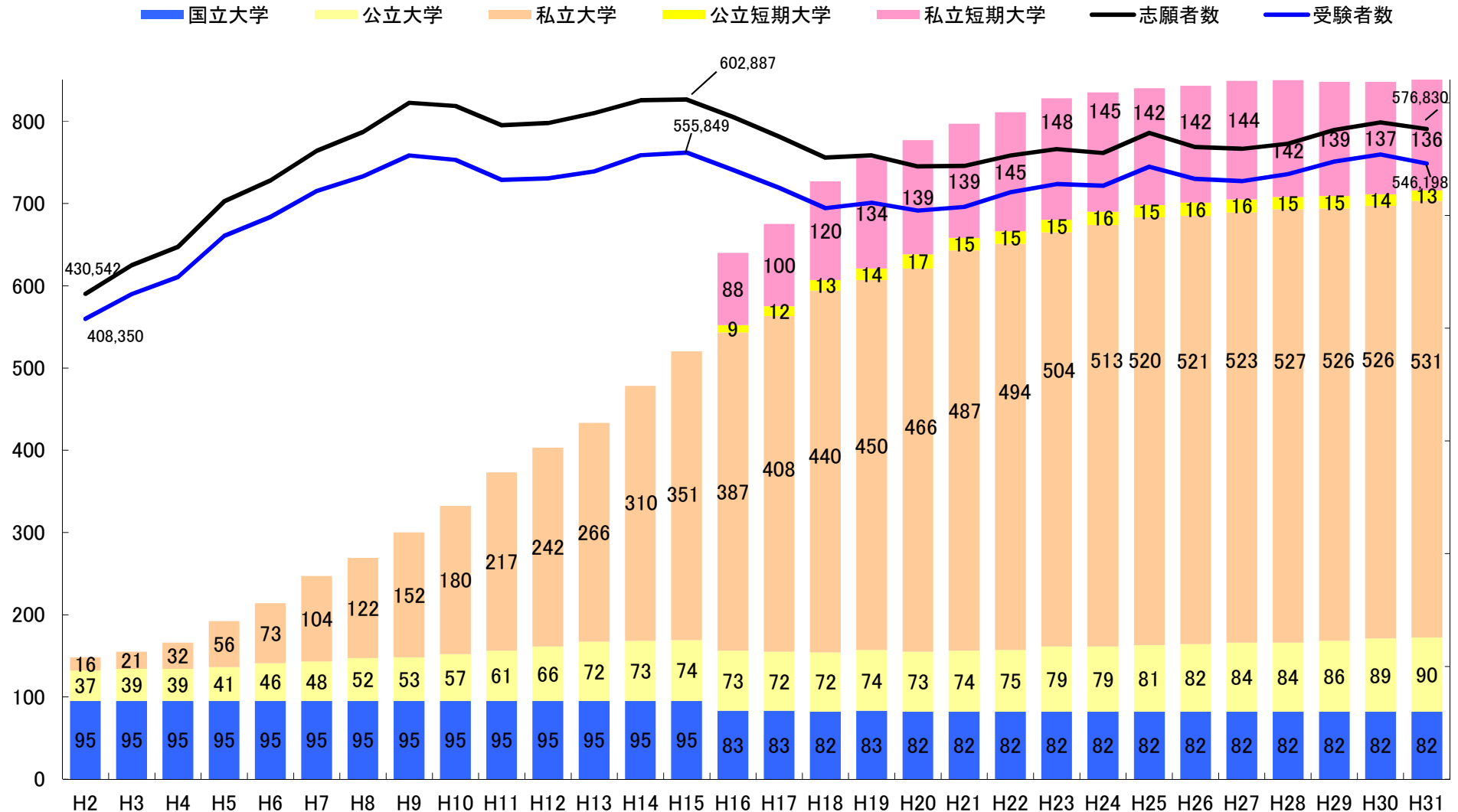
【令和2年度試験時間割】

※出題教科科目数 6教科30科目(第1回(平成2年) 5教科18科目)

期 日	出題教科・科目		試験時間
令和2年 1月18日(土)	地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」「倫理、政治・経済」	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40
	国 語	「国語」	13:00～14:20
	外国語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 「英語」のみ 17:10～18:10
1月19日(日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数学①	「数学I」「数学I・数学A」	11:20～12:20
	数学②	「数学II」「数学II・数学B」 「簿記・会計」「情報関係基礎」	13:40～14:40
	理科②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	2科目受験 15:30～17:40 1科目受験 16:40～17:40

大学入試センター試験参加大学数及び志願者・受験者数の推移

○平成2年度の第一回試験から平成31年度試験で30回目の実施(平成18年度試験から英語リスニングを実施し、平成31年度試験で14回目の実施)。
 ○参加大学については、第一回から年々増加しており、平成31年度試験参加大学数は国公私合計852大学(うち149短期大学)。
 ○志願者数については、平成15年度試験の602,887人がピーク。平成31年度試験の志願者数は576,830人(対前年5,841人減)。



各国の大学入学者選抜に係る共通試験について

未定稿

国名	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ		中国	韓国	日本
共通試験	アビトゥーア試験	バカロレア試験	GCEALレベル	SAT	ACT	普通高等学校招生 全国統一考試(高考)	大学修学能力試 験	大学入試 センター試験
試験回数・時期	1回 2~4月(記述式) 3~6月(口述式)	1回 6月	1回 5~6月	7回 (10、11、12、1、 3、5、6月)	6回 (9、10、12、2、 4、6月)	1回 6月初旬	1回 11月	1回 1月(+追試験)
解答方式	記述式・口述式	記述式・口述式	記述式	マークシート式 記述式(エッセイ)	マークシート 記述(エッセイ、た だしオプション)	択一 記述(小論文含む)	マークシート	マークシート
試験方式	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)	PBT(紙媒体)
設定科目数	州により異なる。 ※3領域(言語・文学・芸 術/社会科学/数学・ 自然科学・技術)から5 科目又は4科目を選択。 うち1科目は口述試験。	取得を目指すバカロ レアの種類により異 なるが、リセ(高校) で学習した科目を網 羅。 ※普通(3コース)及 び技術(8コース)は 予備試験と本試験で 必修10科目程度と自 由選択2科目。職業 (80以上の専門領 域)は必修7科目と 自由選択1科目。	実施団体ごとに異 なる。 Edexcelの2012年夏 実施科目の場合、4 科目 ※通常3科目程度を 選択。	3領域(言語能力 /ライティング/数 学能力) 5分野(英語/歴 史・社会学/数学 /自然科学/外 国語[リーディ ング、リスニング])2 0種類 ※難関大学におい て2科目程度必 要。	4領域(英語/数 学/読解/サイ エンス)	3領域(国語、数学、外国 語)+文化総合、理科総 合 基本的には3領域を課し、 省によって文化総合(政 治・歴史・地理)や理科総 合(物理・化学・生物)また は個別科目を組み合わせ て課す。	7領域(国語、数 学、英語、社会探 求、科学探求、職 業探求、第2外国 語/漢文)46科目	6教科29科目
①試験会場、 ②試験監督者、 ③採点者	①ギムナジウム(大学進 学者が修学する中等教育 機関)、 ②ギムナジウム教員、 ③ギムナジウム教員	①リセ(高校)、 ②リセ教員、 ③リセ教員	①中等学校、 ②中等学校教員、 ③Examining Boardが 雇用した者	①ハイスクール、 コミュニティ・カ レッジ、 ②不明、 ③ETS	①ハイスクール、 コミュニティ・カ レッジ、 ②不明、 ③ACT	①高級中学校(高校)、 ②県レベルの学生募集委員 会、 ③択一式は考試院、記述式 は各大学の教員	①高校(在学中の高 校ではない)又は中 学校、 ②高校教員、中 学校教員、 ③教育課程評価院	①試験参加大学、 ②大学教員、 ③大学入試セン ター
入学時期	10月	9月	主に9月	主に9月		9月	3月	4月

総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の区分について

○総合型選抜(AO入試) (概要)

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

- ① 入学志願者自らの意思で出願する公募制。
- ② 知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準としない。
- ③ 大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、以下のいずれかを用いることが必要。
 - ア 各大学が実施する検査（筆記、実技、口頭試問等）の成績
 - イ 大学入試センター試験の成績
 - ウ 資格・検定試験等の成績
 - エ 高等学校の教科の評定平均値
- ④ ③ア～ウを行う場合にあっては、③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。

(時期)

- ・ 出願期間は8月1日～。
- ・ 学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～。

○学校推薦型選抜(推薦入試) (概要)

出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

- ① 高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用い、その旨を募集要項に明記する。
 - ② 推薦書・調査書だけでは、入学志願者の能力・適性等の判定が困難な場合には、AO入試の③ア～ウの措置の少なくとも一つを講ずることが望ましい。
- ※ 募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

(時期)

- ・ 出願期間は11月1日～。
- ・ 学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～。

○一般選抜(一般入試) (概要)

調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。

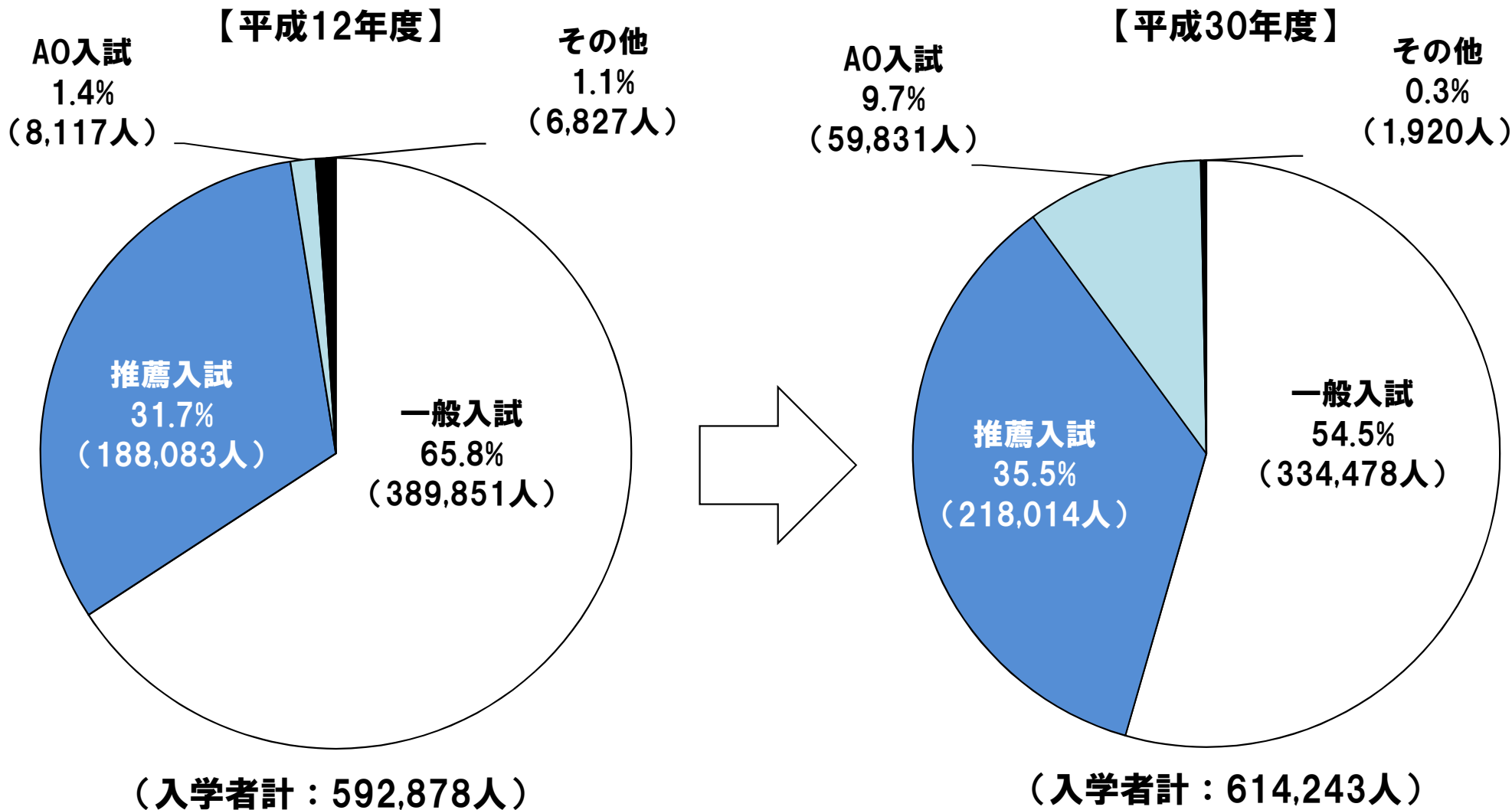
(時期)

- ・ 試験期日は2月1日～4月15日

3. 入学者選抜の実施状況等について

平成30年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、AO入試、推薦入試を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



□一般入試 ■推薦入試 □アドミッション・オフィス入試 ■その他

(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

平成30年度入学者選抜実施状況の概要（国公立別）

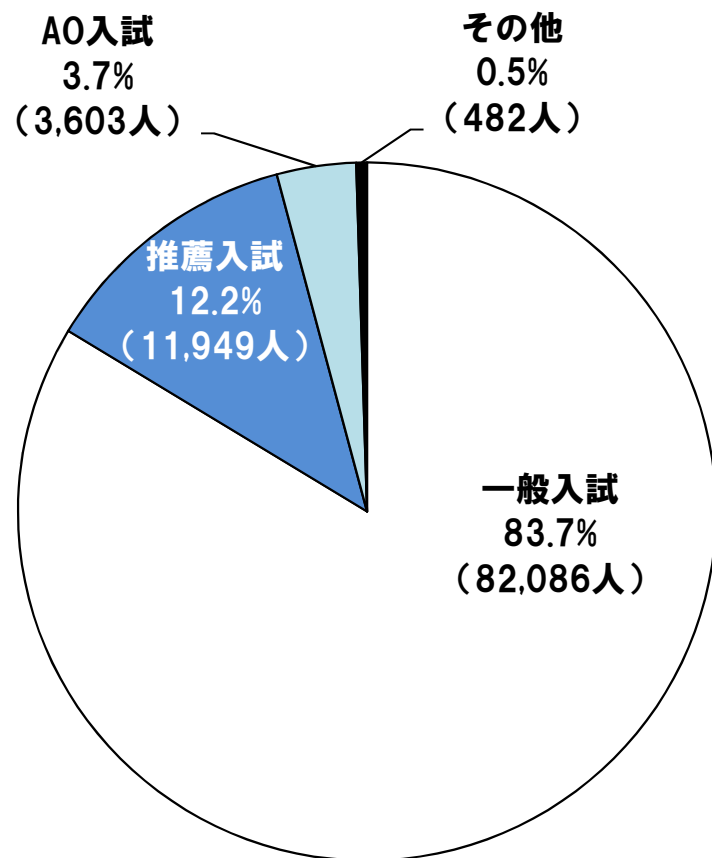
国公立大学では一般選抜が中心

私立では約半数がAO入試、推薦入試を経由して入学している

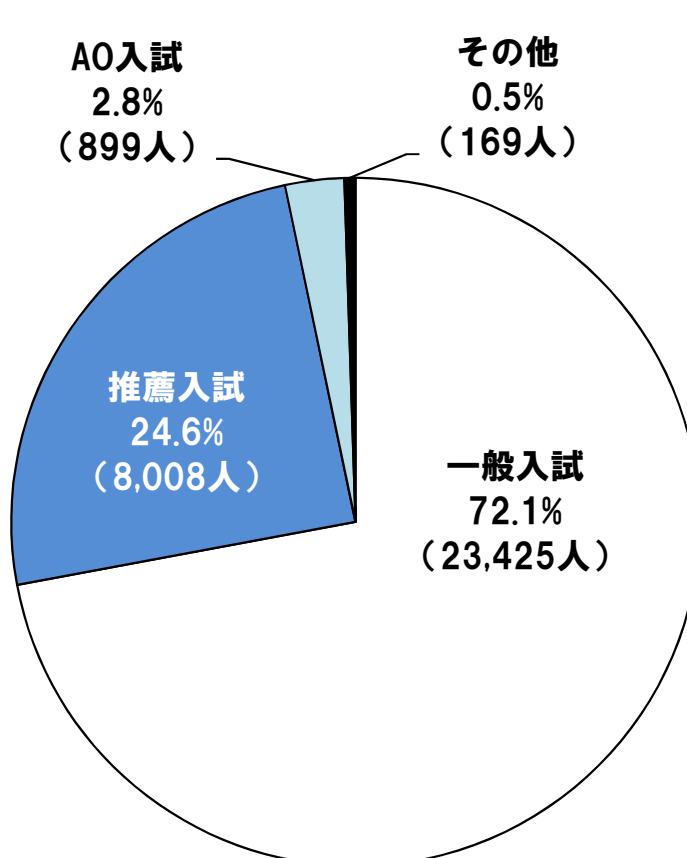
【国立大学】

【公立大学】

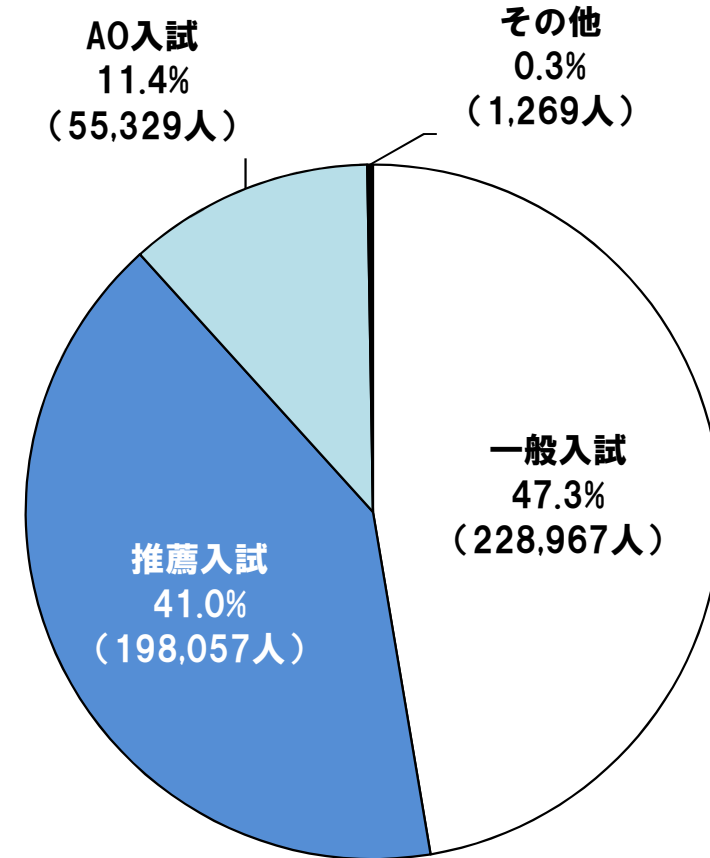
【私立大学】



（入学者計：98,120人）



（入学者計：32,501人）



（入学者計：483,622人）

□一般入試 ■推薦入試 ■アドミッション・オフィス入試 ■その他 20

（注）「その他」：専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

一般入試において面接、小論文等を課す国公立大学(平成31年度入試)

区 分	平 成 3 1 年 度					
	国 立		公 立		計	
入学者選抜の実施 大学・学部数 《 募集人員 》	大学	学部	大学	学部	大学	学部
	82	401	90	202	172	603
	《 95,319 》		《 31,371 》		《 126,690 》	
小 論 文	65	164	66	103	131	267
	(79.3)	(40.9)	(73.3)	(51.0)	(76.2)	(44.3)
総 合 問 題	23	37	16	19	39	56
	(28.0)	(9.2)	(17.8)	(9.4)	(22.7)	(9.3)
面 接	69	171	61	89	130	260
	(84.1)	(42.6)	(67.8)	(44.1)	(75.6)	(43.1)
実 技 検 査	49	55	17	21	66	76
	(59.8)	(13.7)	(18.9)	(10.4)	(38.4)	(12.6)
リ ス ニ ン グ	10	20	2	3	12	23
	(12.2)	(5.0)	(2.2)	(1.5)	(7.0)	(3.8)

- (注) 1. 本表は、平成30年7月末現在で集計したものである。(設置認可申請中等の予定のものを含む。)
 2. 学部内の募集単位により選抜方法が異なる場合には、それぞれの箇所に計上している。
 3. () 書きは、入学者選抜実施大学・学部数に対する割合を示す
 4. 募集人員に外国人留学生を対象とする選抜分は含まない。

平成31年度大学入学者選抜（一般入試）の実施状況の例

○国立大学

	大学種別	合格者／ 募集定員	合格者 －募集定員
①	総合大学(関東)－規模D	102.0%	58
②	総合大学(関西)－規模D	108.0%	230
③	総合大学(中国)－規模D	114.3%	288
④	総合大学(東北)－規模E	120.1%	244
⑤	総合大学(四国)－規模E	107.5%	64
⑥	総合大学(九州)－規模E	111.8%	157
⑦	単科医科大学	100.0%	0
⑧	単科工業大学	112.0%	97
⑨	単科教育大学	107.1%	84
⑩	単科教育大学	116.9%	14

○私立大学

	大学種別	合格者／ 募集定員	合格者 －募集定員
①	総合大学(関東)－規模A	257.9%	8,548
②	総合大学(関東)－規模A	409.1%	16,653
③	総合大学(関西)－規模A	254.3%	10,061
④	総合大学(関西)－規模A	228.0%	7,294
⑤	総合大学(関西)－規模A	349.6%	19,553
⑥	総合大学(関東)－規模B	388.0%	12,662
⑦	総合大学(関東)－規模B	421.8%	13,653
⑧	総合大学(関東)－規模C	215.9%	4,355
⑨	総合大学(関東)－規模C	267.2%	5,091
⑩	総合大学(関東)－規模C	360.9%	8,110
⑪	総合大学(関西)－規模C	392.8%	11,104
⑫	総合大学(東北)－規模E	291.2%	2,757
⑬	総合大学(関東)－規模E	285.6%	2,441
⑭	総合大学(四国)－規模E	336.9%	1,997
⑮	単科医科大学	163.6%	77
⑯	単科工業大学	293.4%	2,862

※大学種別のABC等の規模の表記は、各大学の募集定員に基づいて以下のとおり区分けしている

A:5,000人以上、B:4,000人以上5,000人未満、C:3,000人以上4,000人未満、

D:2,000人以上3,000人未満、E:2,000人未満

※各大学のホームページで公開されている合格者数及び募集定員に基づいて文部科学省で作成

※同一大学内で同時に複数学部等へ併願する者も含む

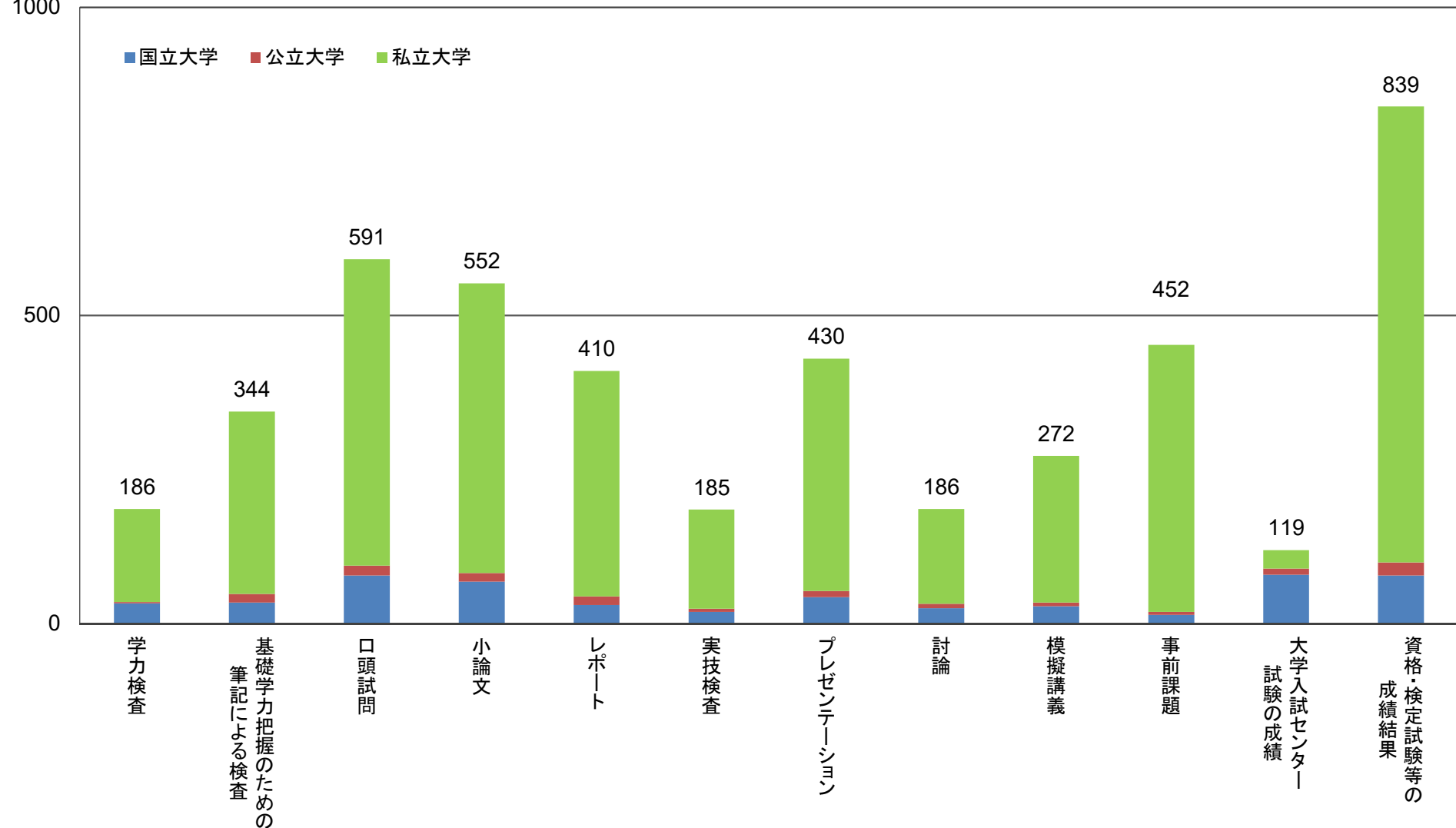
平成28年度AO入試における学力把握措置状況

〇AO入試を実施する学部(1,387学部)における学力把握措置

学部数

1000

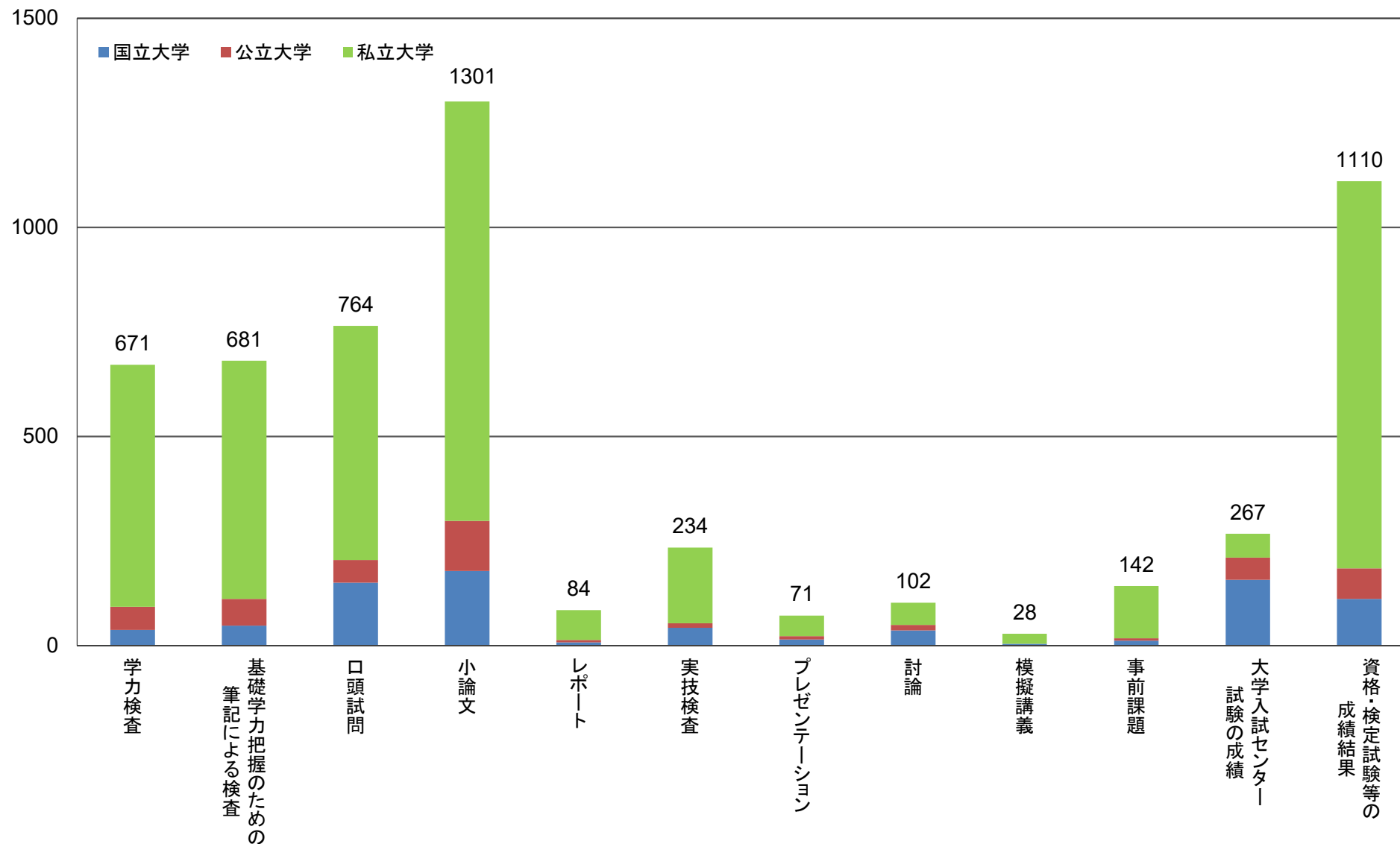
■ 国立大学 ■ 公立大学 ■ 私立大学



平成28年度推薦入試における学力把握措置状況

○推薦入試を実施する学部(2,170学部)における学力把握措置

学部数



個別入学者選抜改革の進展①

○教育再生実行会議第四次提言（H25.10）以降、各大学は積極的に入学者選抜改革に取り組んでいる。

お茶の水女子大学「新フンボルト入試」の導入

平成29年度入試から、現行のAO入試をより丁寧な選抜方法に見直すとともに、募集人員を拡大。

【従来のAO入試】

第2次選考（2日間）
日本語・英語の模擬講義→レポート・小論文作成+グループ討論・面接

【新フンボルト入試】

第2次選考（2日間）

図書館入試 資料を自由に使ってじっくりレポート作成+グループ討論・面接	実験室入試 ①実験・実験演示・データ分析 ②自主研究課題ポスター発表
--	--

第1次選考：書類審査
志望理由書、活動報告書等

プレゼминаール（2日間）
大学の学問世界を実体験・ミニレポート・提出書類等で総合的に一次選考

佐賀大学「佐賀大学版CBT」「特色加点」の開発

多面的・総合的に評価する新しい評価・判定方法を全学部で導入

- ・ペーパーテストでは技術的に測定が難しい「思考力・判断力・表現力」をデジタル技術を活用して評価する「佐賀大学版CBT」を平成30年度から、一部学部の推薦入試において実施
- ・「主体性・多様性・協働性」の観点から志願者の活動・実績等をアドミッション・ポリシーに応じて評価する「特色加点」（※）制度の構築・実施

※志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定。志願者が取り組んできた様々な実績や活動等を申請対象とする。

東京大学「推薦入試」の導入

平成28年度入試から、全学部において「推薦入試」を導入。（1高校：男女各1人）

東北大学「AO入試」の拡大

平成28年度入試から、4学部（経済・医・薬・工）でAO入試を拡大（41人増）。目標として、数年かけてAO入試の規模を現行の18%→30%に。

京都大学「特色入試」の導入・拡大

平成29年度入試から、学部に応じ、学力型AO入試又は推薦入試等による選抜を行う「特色入試」（平成28年度入試から導入）について、募集人員を拡大（36人増）。

※平成30年度入試からは、全学部全学科で「特色入試」を導入

大阪大学「世界適塾入試」の導入・拡大

平成29年度入試から、AO入試、推薦入試、国際科学オリンピック入試による選抜を総称した「世界適塾入試」を導入・拡大予定。

個別入学者選抜改革の進展②

愛媛大学「活動報告書」と「調査書」の活用

一般選抜において
「調査書」単独で、あるいは面接等と合わせて点数化。

平成33年度入試から全ての入試区分において「調査書等」を合格者の判定に活用。

- ・総合型選抜及び学校推薦型選抜において「活動報告書（四国5国立大学共通様式）」を課し、「調査書」と併せて評価する。
- ・「活動報告書」は四国5国立大学共通出願サイトからオンライン入力。

国際基督教大学「総合教養」科目の導入

平成27年度入試から一般入試において、「総合教養（ATRAS）」科目を導入。

- ・リベラルアーツの基礎となる人文科学、社会科学、自然科学を統合した学力を判断する総合問題
- ・特定のテーマについての15分程度の講義を聴き、その内容及び関連する論述や資料に関する設問に回答
- ・広い領域への知的好奇心を持って、さまざまな課題に対応する能力（コンピテンシー）を評価

早稲田大学 入試改革の方向性と展開

平成25年度に「入試開発オフィス」及び「入試開発検討会」を設置。さらに、翌年（平成26年）4月には「入学者選抜オフィス」を設置し改革に向けた体制構築を行う。

平成29年度入試から、文化構想学部（70名）、文学部（50名）で「一般入試（英語4技能テスト利用型）」を導入。また、人間科学部で科学への関心と思考力・論理性・論述力・表現力を重視する「公募制学校推薦入試（FACT選抜）」を導入。

平成30年度入試から、地域への貢献に高い志を持つ人材を対象とした「新思考入試（地域連携型）」を導入。学力型AO入試として全学的に実施予定。

立命館アジア太平洋大学 「世界を変える人材育成入試」の導入

2021年度入試
総合型選抜

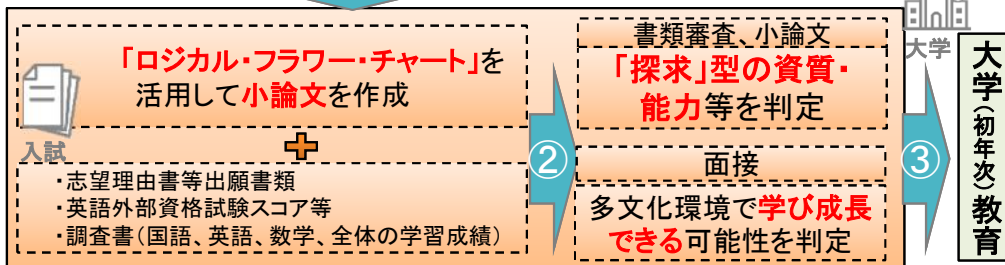
新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を高大接続で一貫して伸ばし、批判的思考力を備えたグローバル人材を育成

受験前から「ロジカル・フラワー・チャート(※)」を活用し、自分なりの「問い」を立て自分なりの「方法」で自分なりの「答え(最適解)」を見つけて「探求」型の能力(批判的思考力)を育成

※自分なりの「問い」を立て、自分なりの「方法」で自分なりの「答え(最適解)」を立証してアウトプット(論文作成やプレゼンテーション)したり、他者の議論を吟味したりするための、APU独自の「探究型の学び」のツール

高大接続改革に合致した入試

- ①高等学校までの学びが
- ②大学入試を通じて
- ③大学での学びに繋がる



個別入学者選抜改革の進展③

上智大学「TEAP利用入試」の展開

平成27年度から導入されている、上智大学と日本英語検定協会が共同開発した「**アカデミック英語能力判定試験（TEAP）**」を利用する入試。
⇒TEAPのスコアが基準点に達していれば出願可能。大学が実施する個別試験においては英語科目は課さない。

基準点の例：法学部 国際関係法学科 260点
外国語学部 英語学科 300点

平成28年度入試から、一部学科において**4技能のスコア**を利用。

平成29年度入試から、すべての学部学科において**4技能のスコア**を利用。

関西学院大学「高大接続センター」の設置

平成27年度に「**高大接続センター**」を設置。
平成28年度入試から高大連携・入試改革の取組を実施。
平成29年度アドミッションオフィサー規程整備。

【SGH、SSH等公募推薦入試】

SGH、SSHなどの高等学校における主体的、対話的かつ深い学びや探究に関する取り組みを多面的・総合的に評価する入学試験を実施。

【主体性評価方式】

教育学部初等教育コースの一般入試主体性評価方式では、リーダーシップに関する取組を調査書と志望理由書に基づき評価し、学力検査との総合点で判定。

追手門学院大学「アサーティブ入試」の拡大

平成26年度から、学ぶ意欲と姿勢を持った受験生に入学を許可することを目的とし、受験前から「学ぶことについて考える」及び「アイデンティティの形成」の機会となるアサーティブプログラムとその成果を発揮できるアサーティブ入試を導入。

アサーティブプログラム

ガイダンス

個別面談

インターネットを利用した学習プログラム

振り返りを促すアサーティブノート

アサーティブ入試

一次試験：グループディスカッション
基礎学力適性検査

二次試験：面接

入学前学習

平成30年度までに、アサーティブ入試入学者割合を**3割（目標値）**に拡大。

関東学院大学「多面的・総合的評価指標」の開発

平成30年度に「**アドミッションズセンター**」を設置。

多面的・総合的な人物評価のための**エビデンスの整備と評価指標の開発**。

- ・平成25年度～平成33年度入試出願者の全ての調査書を再検証するために大学入学前の多様な活動履歴をデータ化。
- ・IRの保有する学生統合データに大学入学前の活動データを統合し、学部・学科単位で「**入学後に伸びる学生像**」のあぶり出し。
- ・多面的・総合的評価の実現に向けた大学独自の多様な活動履歴の「**ループリック評価**」指標を開発中。

個別入学者選抜改革の進展④

首都大学東京「学力の3要素評価のための「調査書等」を活用した評価手法」の開発

入学後に活躍する人材の活動履歴の特徴を明らかにし、それを入試で評価できる仕組みを作る。

平成33年度入試から**全ての入試区分**において「調査書等」を合格者の判定に活用。

JAPAN e-Portfolio (※) を用いたデータ収集とその分析を通じ、
 ・志願者、合格者、入学者それぞれの高等学校等段階での活動履歴の特徴を分析。
 ・「調査書等」における評価項目の選定並びに評価方法を開発中。

質の高い入学者選抜実施のために**データを活用し検証を繰り返す。**

入学者の高等学校等在籍時のデータ (ポートフォリオ等)

+

入学後のデータ

+

卒業後のデータ

追跡

データを基にした**PDCAサイクル**を回し続ける。

立正大学 高大接続Advance入試導入・主体性等分野実証事業(※)への参画

平成31年度入試から「学力の3要素」をより多面的に評価することを主たる目的とした高大接続Advance入試として、**AO入学試験ゼミナール型入試**を新設。

問題解決能力・コミュニケーション能力の見極めに、より時間をかけた選抜方法を加え、募集人員を拡大。

【第1次選考】

- ・講義の受講
- ・受講後、当日課題の作成・提出
- ・書類審査 (志望理由・調査書等)

【第1次選考合格者】

- ・与えられた課題について2次選考までに調べ学習を行い、第2次選考の際に持参する。

【第2次選考】

- ・ゼミナール形式にて、課題についてのプレゼンテーション、およびグループディスカッションを実施。

※ 「文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業 (主体性等分野)」において、同事業で開発する「Japan e-Portfolio」(高校eポートフォリオと連動した大学出願ポータルサイト)を使った実証事業を平成30年度に実施

4. 障害等のある入学志願者への配慮の状況について

大学入試センター試験 受験上の配慮決定者数 ①

○ 区分別内訳（実人数）

（単位：人）

区 分	平成31年度試験 決定者数	平成30年度試験 決定者数
視覚障害	107	103
聴覚障害	448	477
肢体不自由	284	283
病弱	520	142
発達障害	335	310
その他	1,236	1,558
合 計	2,930	2,873

【備考】

- 複数の区分に該当する者は、主たる区分に計上。
- 平成30年度試験まで「消化器疾患」は「その他」区分に計上していたが、平成31年度試験から「病弱」区分に含めることとし、『受験上の配慮案内』において、例示として明記している。
なお、平成30年度試験の決定者数「その他」区分1,558人のうち、「消化器疾患」は388人、平成31年度試験の「病弱」区分520人のうち、「消化器疾患」は394人であった。

大学入試センター試験 受験上の配慮決定者数 ②

○ 配慮事項別内訳（延べ人数）

（単位：人）

区分	配慮内容	平成31年度試験 決定者数	平成30年度試験 決定者数	
視覚障害	点字解答及び時間延長（別室）	リスニング連続方式	9	12
		リスニング音止め方式	1	0
	文字解答及び時間延長（別室）	リスニング連続方式	34	42
		リスニング音止め方式	12	6
	文字解答（別室）	10	8	
	拡大文字問題冊子の配付	14ポイント	46	45
		22ポイント	15	17
その他（拡大鏡等の持参使用、座席指定等）	137	83		
聴覚障害	リスニングの免除	216	223	
聴覚障害	CDプレーヤーのスピーカーから直接音声を聞く方式等	167	195	
	手話通訳士等の配置及び注意事項等の文書による伝達	62	61	
	注意事項等の文書による伝達	177	174	
	その他（補聴器又は人工内耳の装用、座席指定等）	640	654	
肢体不自由	チェック解答及び時間延長（別室）	リスニング連続方式	32	28
		リスニング音止め方式	3	8
	チェック解答（別室）	24	19	
	代筆解答及び時間延長（別室）	リスニング連続方式	2	2
		リスニング音止め方式	5	2
	代筆解答（別室）	1	2	
	別室の設定	35	36	
座席の指定	115	113		
その他（車イスの持参、試験場への乗用車での入構、杖の持参使用、付添者の同伴等）	910	900		
病弱	別室の設定	147	78	
	座席の指定	332	52	
	その他（車イスの持参、試験場への乗用車での入構、杖の持参使用、付添者の同伴等）	444	179	

（単位：人）

区分	配慮内容	平成31年度試験 決定者数	平成30年度試験 決定者数	
発達障害	マークシート解答及び時間延長（別室）	リスニング連続方式	27	48
		リスニング音止め方式	4	11
	チェック解答及び時間延長（別室）	リスニング連続方式	6	4
		リスニング音止め方式	6	1
	チェック解答（別室）	47	32	
	拡大文字問題冊子の配付	14ポイント	37	24
		22ポイント	3	5
別室の設定	184	162		
その他（注意事項等の文書による伝達等）	227	112		
その他	別室の設定	857	924	
	座席の指定	248	519	
	その他（車イスの持参、試験場への乗用車での入構、杖の持参使用、付添者の同伴等）	361	671	
合 計		5,583	5,452	

個別入学者選抜において実施した特別措置の内容

○平成30年度個別入学者選抜において実施した特別措置の内容については以下のとおり。

・実施校数が多いのは「その他」を除けば、「別室を設定」が最も多く(246校)、次いで「補聴器の持参使用」(198校)、「試験時間の延長」(172校)と「トイレに近接する試験室に指定」(172校)。

・障害種別では「視覚・言語障害」についての実施が最も多い(265校)。

措置事項	点字問題を点字で解答	拡大文字問題の準備	拡大解答用紙の準備	音声で出題し音声で解答	マークシートに替えて文字で回答	チエック解答	試験時間の延長	照明器具の準備	特製机の使用	拡大鏡等の持参使用	補聴器の持参使用	車椅子等の持参使用	松葉杖の持参使用	パソコン等の持参使用	手話通訳者の付与	文書による伝達	窓側の明るい席の指定	トイレに近接する試験室に指定	別室を設定	試験室を一階に設定	介助者の付与	試験場への車での入構許可	その他	特別措置を実施した学校数
	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)	(校)
視覚障害	17	69	44	0	9	17	67	10	13	56	0	1	1	7	0	4	8	3	59	2	10	8	47	108
聴覚・言語障害	0	0	0	0	0	0	14	0	0	1	198	3	0	3	32	157	2	5	41	4	6	14	179	265
肢体不自由	0	14	21	0	1	23	67	5	59	1	1	144	60	11	0	1	1	90	91	62	58	110	114	217
病弱・虚弱	0	3	4	0	0	5	22	0	9	3	2	20	6	2	0	1	2	61	88	20	8	43	114	160
重複	1	4	4	0	1	4	14	0	9	5	2	17	3	5	2	4	1	12	17	7	13	21	25	35
発達障害(診断書有)	0	13	12	0	2	14	65	0	0	4	0	1	1	0	0	54	4	15	111	3	5	11	70	149
精神障害	0	0	2	0	0	2	10	0	1	1	1	2	0	2	0	8	1	52	87	7	3	12	94	146
その他の障害	0	2	3	0	0	2	6	1	3	2	0	5	1	2	0	1	0	69	55	5	3	22	110	143
実施校数	17	88	74	0	12	44	172	14	74	68	198	167	66	24	32	180	18	172	246	80	84	166	317	459

※ 特別措置した校数は、大学(大学院、大学院大学及び専攻科を含む)、短期大学(大学内に短期大学部を有している場合を含む。専攻科含む)、高等専門学校(専攻科を含む)

(平成30年度(2018年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書(日本学生支援機構)より作成)